

「自助」の言葉 もう使わないで

無職

(愛知県 72)

菅義偉首相は常々、自身の社会像として「まずは自助で」と強調する。今国会の質疑ではコロナ禍で困窮する人々に対し「最終的には生活保護という仕組み」があると述べた。いま生活苦にあえぐ人は多い。住む場所も追われ路上生活を余儀なくされる人もいる。なのに「施しのごとく、生活保護があるから」安心して「自助」を言っているように聞こえる。

一方、生活保護申請のハードルは高い。家族への扶養照会や資産保有の厳しい制約など申請人のプライドは傷つけられる。また自助努力発言

で社会に自己責任論がはびこり、申請を躊躇ちゅうちゆさせる現実があるのでないか。生活保護に頼ることなく、全ての国民が自立できるよう制度、仕組みを変えるのが政治だろう。

「最後は生活保護」があるからなど切り捨てる発言はあまりにも冷たい。首相が強調する「自助・共助・公助」そして「絆」という言葉は、「公助に頼らざるを得ない」という切実な意識の抑制につながる。もう使わないでいただきたい。

国民が自粛する中、クラブやホテル、料亭の会食に興じる国会議員には生活保護の申請でたじろぐ生活困窮者など見えないのかもしれない。